

実践編 第四回 『村明細帳①』

「村差出明細帳 宝暦十辰 月日」

（小川家文書 D-4
17）



村差出明細帳

武蔵国多摩郡
小川村

武州多摩郡

一高六百七拾貳石四斗六升四合

小川村

此惣反別三百九拾四町八反四畝壹歩畑方

内訳

石盛三

下畑貳拾七町六反貳畝拾歩

酉御検地

石盛貳

此分米貳拾貳石九斗三升六合

下畑拾壹町四反六畝貳四拾歩

寅御検地

此分米貳拾貳石九斗三升六合

〔用語〕

・村差出明細帳…一村ごとの概況を記した村勢要覧。領主交代などの際各村に提出させた。記載項目は村高、人口、戸数、寺社、牛馬、山林、水路、主な農作物から村役人の人数、橋、高札の数や主要都市への里数など各般にわたって記載した。村鏡・村明細・村差出帳とも。むらかがみ

・高…土地の生産力の表示単位。田畑の生産量にもとづき、土地の面積表示にも用いられた。

一町(約1町100 m×100 m)∥10反(段)∥100畝∥3000歩

・石盛…こくもり

土地、屋敷ごとに定められた反あたり標準収穫量。単に収穫量だけでなく、耕地の生産条件、村の立地条件などを加味して定めた。田畑を上・中・下・下々などの等級に分け、まず上田の坪狩(村内の任意の一坪を選び収量を検査すること)を行い、坪あたり粃一升ならば一反(∥300坪)あたり3石となり、5合摺りにして1石5斗、これが上田の石盛となる。それより2斗ずつ引き下げて中・下・下々の石盛を決定した。

・石高：

ここでは「石高」の記載はないが、（此分米…石…斗）

と記されているのが石高。土地生産高を米の量に換算

して表示したもの。田畑の面積×石盛∥石高

1石（180ℓ）∥10斗（18ℓ）∥100升（1.8ℓ）∥1000合
（180ml）

『角川日本史辞典』角川書店

〔解説〕

本講座も三回目を迎えます。今回から村の概況を知ることができる『村明細帳』を、抜粋ではなく丸ごと一冊紹介します。

最初に記されるのは村高（「用語」参照）、次に反別（総面積）、地目別内訳と続きます。

そして見慣れない単位がでてきます。江戸時代の度量衡は現在とは全く違うので、初めのうちはイメージしづらいかもしれません。石高（石・斗・升・合）は容積（体積）の単位です。一石は成人一人が一年間に消費する量とされてきましたが、これは一日三合の米を食した計算で、現代を生きる私たちのバラエティに富んだ食生活とは程遠いものかもしれません。地目以下（町・反・畝・歩）は面積の単位です。一町が約100m×100mなので、学校の校庭くらいの広さと想像できます。

次に文字を見ていきましょう。表紙の



「村」の木偏がかなりくず

れています。基礎編『人名を読んでみよう』⑨林蔵の



「林」で解説

の通り、木偏が手偏のようにくずれます。



「差」も特徴的なくずし

字です。

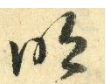


「羊」の部分の横棒が省略されてしまいます。『人名を読ん

でみよう』②彦兵衛の



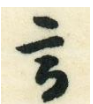
「彦」にも酷似しています。



「明」は『元

号を読んでみよう』の「明暦」、『表題を読んでみよう』の「天明」にも登

場していますので、おさらいしてください。



「高」も難しいですね。

「なべぶた」の下が「る」の様にみえますが、一般的な「高」のくずし方です。「ト」の様に長く伸びた字は「歩」のくずし字で、検地



帳はじめ年貢関連文書に頻出しますので覚えておきましょう。「此分」の



「分」は難解です。これは筆順が楷書と違い、二画目に「刀」を書く

ためです。「八」の右側は点のようになってしまるのが特徴です。